

Kushigata

# 櫛形エリア 観光ガイド

いにしへの歴史と文化  
たぐいまれな自然が残る櫛形エリア

櫛形山脈(くしがたさんみやく)は新潟県胎内市から新発田市にかけての山脈。鎌倉時代から戦国時代にかけて北端の鳥坂山(とっさかやま)に鳥坂城・南端の要害山には加治城(かじじょう)が築かれ、現在も残る堀切などの遺構から当時の兵(つわもの)達の物語をしることができます。



## 櫛形山脈周辺 イベントスケジュール

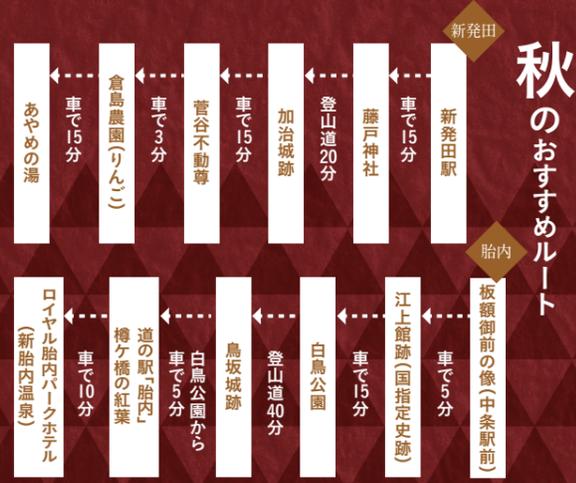
**新発田市**

- 4月上旬 「春RUN漫」しばたジギング大会 in 加治川桜堤
- 4月29日 大峰山山桜まつり (道の駅加治川)
- 4月29日 大峰山ハイキング
- 5月中旬 櫛形山脈縦走チャレンジ
- 6月 ほたる音楽まつり(大天城公園)
- 10月 食のふれあいフェスタ in 加治川 (道の駅加治川)
- 10月下旬 紅葉ウォーク(菅谷コミュニティセンター)
- 2月2日 菅谷不動尊 千日参り節分会

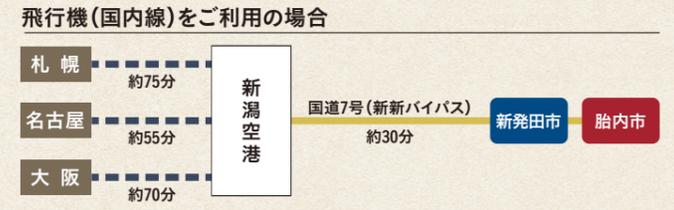
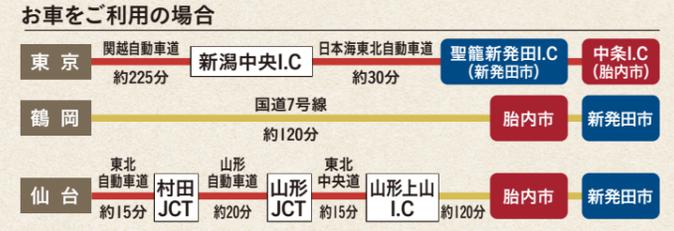
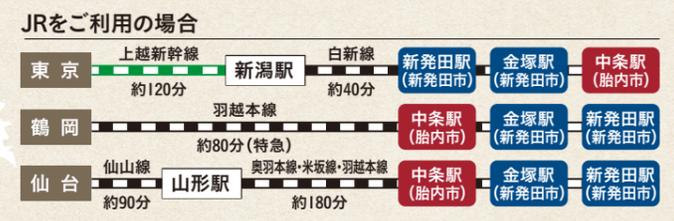
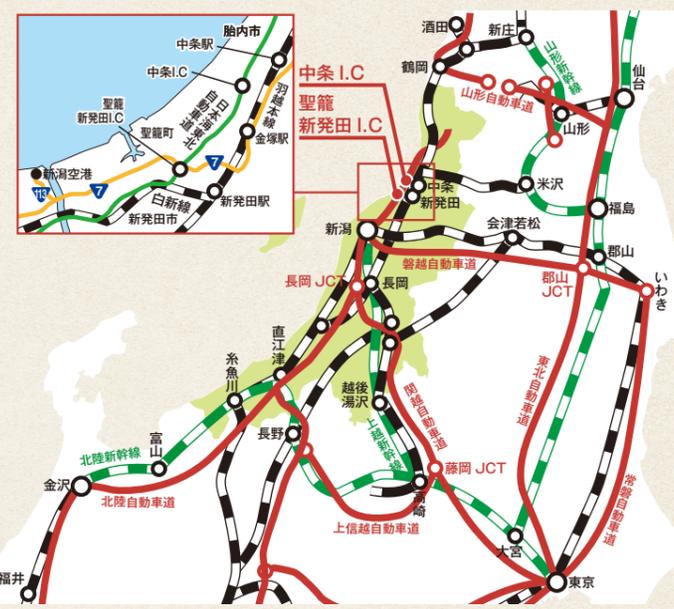
**胎内市**

- 4月中旬 馬頭観音まつり(樽ヶ橋エリア)
- 4月29日 櫛形山脈山開き登山(関沢森林公園)
- 5月下旬 胎内川新緑まつり(道の駅「胎内」)
- 8月15日 櫛形ウインドトレイル(櫛形山脈縦走)
- 8月 胎内温泉まつり(胎内スキー場前)
- 8月下旬平成29年(月)
- 9月7日 世界最大級胎内星まつり(胎内平 胎内自然天文館)
- 9月16日 中条まつり(熊野若宮神社礼大祭)
- 9月中旬 中秋の名月 板額の宴(奥山荘歴史の広場)
- 9月下旬 米粉フェスタ in たいない(ぶれすぽ胎内)
- 10月下旬 胎内いもんまつり(ぶれすぽ胎内)
- 10月 黒川産業まつり(黒川支所)
- 2月上旬 乙宝寺おまんたら法要(乙宝寺)
- 2月中旬 胎内スキーカーニバル(胎内スキー場)

## おすすめルート



## アクセスマップ



お問い合わせ先

- 新発田市観光振興課 <http://www.city.shibata.niigata.jp/> TEL.0254-28-9960 FAX.0254-26-8585 〒957-0055 新潟県新発田市諏訪町1-2-11
- 胎内市商工観光課 <http://www.city.tainai.niigata.jp/> TEL.0254-43-6111 FAX.0254-43-7392 〒959-2693 新潟県胎内市新和町2-10
- 新発田市観光協会 <http://shibata-info.jp/> TEL.0254-26-6789 FAX.0254-26-5031 〒957-0055 新潟県新発田市諏訪町1-2-11
- 胎内市観光協会 <http://www.tainai.info/> TEL.0254-47-2723 FAX.0254-47-2737 〒959-2806 新潟県胎内市下赤谷387-1

▼佐々木三郎盛綱



盛綱は鎌倉幕府を開いた源頼朝の信頼が特に厚い側近といわれています。佐々木氏はもともと源氏の流れをくみ、近江国佐々木荘現在の滋賀県を治めていました。1177年から1185年にかけて日本全国で起こった源氏と平氏の戦い「源平合戦」では、盛綱をはじめとする佐々木氏が活躍。その記録は、鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」にも残されています。

源平合戦などの功績により、盛綱は、備前国児島(現在の岡山県岡山市倉敷市付近)、上野国磯部郷(現在の群馬県安中市)、越後国加地荘などを与えられました。

盛綱を源流とする佐々木一族は、平安時代末期から戦国時代末期にかけて、現在の新発田市域を統治しました。新発田の繁栄は、佐々木盛綱から始まったと言ってもよいでしょう。

# の章

## ■新発田市編

### 源氏の武将 佐々木三郎盛綱

新発田市と胎内市には多くの名所・旧跡。そして魅力的な歴史上の人物が語り継がれています。榊山脈は鎌倉時代から戦国時代にかけて多くの戦いが起こり、源氏の佐々木三郎盛綱と平氏の流れをくむ「越後城氏」・「板額御前」が活躍した鎌倉時代の歴史は、現代の新発田と胎内の繁栄の基礎を築いたといわれています。

### 一 加地荘領主 盛綱

「加地荘」は、現在の新発田市域から新潟市沼垂付近までを占めていたといわれる荘園で、盛綱は領主として田畑を開発し、この地を治めました。鎌倉時代に入り、鳥坂城の戦いの後は、子の信実とその子孫により加地荘の開発が進められ、新発田の基礎を築いていきました。

### 一 盛綱の子孫と 新発田の繁栄

盛綱の子孫は、室町時代から戦国時代にかけて、加地氏、新発田氏、竹俣氏などに分かれ、有力な豪族に成長していきました。

戦国時代には、佐々木一族は、上杉謙信の配下の武将として、武田氏との川中島の戦いなどで活躍します。謙信の没後、後継者の上杉景勝と加地氏や新発田氏が対立。7年間にわたる抗争を経て、加地城などが落城しました。1587年、最後に残った新発田重家の居城も落城し、新発田氏は滅亡します。方景勝方に残った竹俣氏は、上杉氏に從つて、会津・米沢へと移つていきました。1598年、豊臣秀吉に命じられ、加賀大聖寺から溝口秀勝が入封し、初代新発田藩主となります。新発田重家の居城跡には、現在の新発田城が建てられ、約270年にわたって、溝口氏に統治されました。

# 地の章

榊山脈は四季折々の豊かな自然の宝庫。大峰山椋平桜樹林などの桜、榊山脈のブナ林、高山植物などの植生や登山道展望台からの絶景に恵まれ、お花見やハイキング、登山などの山遊びに最適なエリアです。



▲大峰山展望広場

### 一 榊山脈の自然や景観

越後平野の北東部に位置する榊山脈は、ともに飯豊連峰を源流とする。新発田市を流れる加治川と胎内市を流れる胎内川に両端を分断されているため、全長わずか13.5km、最高峰は榊山脈の標高568m、平均標高が300mにも満たない「日本一小さな山脈」として知られています。各展望台から望む飯豊連峰・朝日連峰の壮大な景観、田園風景の広がる越後平野と日本海に浮かぶ佐渡島はまさに絶景です。また、美しいブナ林や南方、北方系が入り混じった多様な植生、絶滅が危惧される貴重動植物の宝庫であり、多様で豊かな自然が凝縮されています。

### 一 榊山脈の自然体験

#### 登山・ハイキング

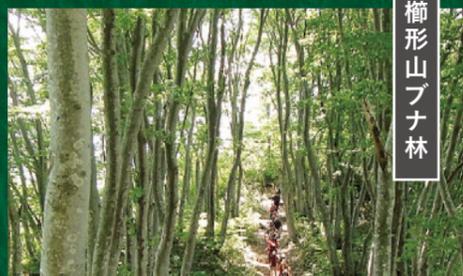
榊山脈の景観を満喫できる登山道は尾根に沿って整備されており、縦走コースはもちろん、自分の体力に合ったコース設定も可能で、幅広い年代の方が気軽に登山を楽しむ山として親しまれ、榊山脈縦走登山やウォークイベントも開催されています(裏表紙参照)。

#### お花見

国の天然記念物、大峰山椋平桜樹林や桜公園などの多種多様な桜は、4月～5月中旬が見頃で、品種によっては12月頃まで觀賞することができます。4月の大峰山山桜まつりもお楽しみください(裏表紙参照)。

### ブナ林や紅葉で深呼吸

## 胎内エリア



榊山ブナ林

胎内市に位置する榊山山頂一帯には新潟県ブナ林100選に選ばれた見事なブナ林が広がり、心地よい爽快感を味わうことができます。このブナ林を抜けた山頂からは壮大な飯豊連峰・朝日連峰などの山岳景観を臨むことができます。MAP P.5

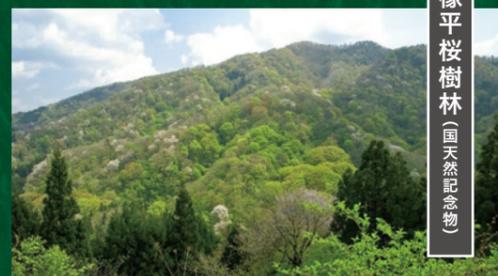
### 樽ヶ橋の紅葉



鳥坂城の戦いの伝説が残る樽ヶ橋、道の駅「胎内」の芝生広場から胎内川を囲む山々の紅葉は絶景です。真っ赤な樽ヶ橋も紅葉に溶け込み、撮影スポットとしてもおすすめです。MAP P.6-A

### 桜の図書館を散策

## 新発田エリア



椋平桜樹林(国天然記念物)

昭和9年に国の天然記念物に指定された大峰山椋平桜樹林はオオヤマザクラ、オクチョウジザクラをはじめ、自然交配によって生まれた中間雑種もあり、種類は40種以上、4月～5月中旬の見頃には約1000本もの桜が山腹を包み、雪模様の花景色になります。特に大峰山登山道の一本松展望台からの眺めは圧巻です。MAP P.5

### 高山植物



※写真はイメージです

数多くの高山植物を楽しめるのが榊山脈の魅力の一つ。4月上旬から下旬まで、カタクリやおオバキスミレ、エンレイソウ、ヒトリシズカなど多くの高山植物に出会うことができ、特に大峰山山頂付近の登山道を彩るカタクリの群生は必見です。MAP P.5.6



大峰山椋平桜樹林と金山城遺跡に隣接する「桜公園」には世界の桜109品種、約300本が植栽されています。公園を囲む遊歩道も整備されており、緑色の花をつける御衣黄など珍しい品種の他、4月と10月に花をつける十月桜など、四季を通じて観桜できます。MAP P.6-C

## ■胎内市編

### 一 越後城氏

平安時代末期から鎌倉時代初期まで越後国に栄えた豪族です。桓武平氏の流れをくみ、武勇の名を天下にとどろかせた余五将軍平維茂(よこしょうごんたいら)のこれらもの子、繁成が(出羽・秋田県)城介・朝廷より与えられた官職名だったことから、そののち城氏を名乗りました。

城氏の治めた奥山荘は、現在の胎内市の大部分と、その周辺地域を含む広大な荘園で「吾妻鏡(あづまかがみ)」文治2年(1186)3月12日の条にのる年貢未納荘園の注進状(ちゅうしんじょう)に「殿下御領奥山荘」とあり、撰閑家領(せんかんけりょう)でした。この荘園の開発領主と考えられている城氏が鳥坂城の戦いで滅亡した鎌倉時代以降は、三浦和田二族(後の中条氏、黒川氏、関澤氏)が地頭として治めました。

### 一 弓の名手 板額御前

今から約800年前に胎内市で活躍した勇婦「板額御前」は鎌倉時代初期の越後の豪族「城資盛」の嫡母といわれ、弓の名手として知られています。

「鳥坂城の戦い」で攻め入る敵に矢を浴びせ、その百発百中の強弓が敵を驚嘆させた様子などが、鎌倉幕府の正史である「吾妻鏡」に登場します。女性の、それも敵方の武将が記録される事は非常に珍しく、それだけ彼女の活躍が鎌倉武士達の心に強い印象を与えたといえます。容姿端麗で、静御前、巴御前とともに日本の三大御前の一人とされています。



▲五十嵐 力氏 画

【吾妻鏡に記された板額御前】 鎌倉幕府の正史である「吾妻鏡」では「女性の身たりと雖(いえず)も、百発百中の芸殆ど父兄に超ゆるなり。人挙て奇特を謂う。この合戦の日殊(こと)に兵略を施す。童形(どうぎょう)の如く上髪(じょうは)は(せ)せしめ腹巻を着し矢倉(やぐら)の上に居て、襲い到るの輩(やから)を射る。中(あ)たる者死なずと云うこと莫(な)し。」と書かれています。



【鳥坂城の戦い】 1201年4月、平氏の流れをくむ城資盛軍と盛綱を総大将とする幕府軍との戦い。この戦いで、城資盛の嫡母・板額御前が鳥坂城の櫓の上から射た弓は百発百中といわれています。幕府軍の藤沢四郎清親が板額の太腿を弓で射ぬき、鳥坂城は落城し、平安後期以来の越後最大の豪族武士団、越後城氏は歴史から姿を消しました。



飯角 (イイズミ)

鳥坂城の南西約2kmに飯角とよばれる集落があります。板額御前がここで生まれたので飯角御前と呼ばれていたのが音読みで、「はんがく」、つまり板額、坂額の文字に置きかえられたと言われています。

MAP1 P.5



鳥坂城跡 (国指定史跡)

板額御前が最後に活躍した城氏の城であり、後に中条氏が再興しました。

現在の姿は戦国時代末期のもので、山頂の堀切りで12世紀代の白磁が拾われており、この場所が城氏の時代から使われていたことがわかっています。

MAP1 P.6-A



板額御前の像

建仁元年の鳥坂城の戦いから800年目を記念し2001年に「板額御前奮戦800年祭」がおこなわれました。銅像はそのとき建てられたもので、JR中条駅前広場に鳥坂山をのぞむ角度に配置されています。

MAP1 P.6-B



樽ヶ橋

鳥坂城の戦いで破れた資盛が松の木を倒して胎内川に橋を架け、出羽国に走ったことから、この橋を小太郎(資盛)が橋と呼んでいたものが訛って、樽ヶ橋になったという伝説が地元には伝わっています。

MAP1 P.6-A

## 【板額御前と越後城氏】の歴史

	板額御前と越後城氏	佐々木三郎盛綱と佐々木加地氏
1050	城家初代 平繁成、秋田(出羽)城介に任命される。 11世紀後半奥山荘成立と推定	
1150		秀綱(後の盛綱)、相模国秦野(神奈川県秦野市)で誕生
1159	平治の乱 (平氏が全盛期を迎える。平氏の城一族	が阿賀北地域を開発する。)
1166		源頼朝に仕える。16才で元服し、秀綱から盛綱に改名
1180頃	越後国奥山荘にて板額御前誕生(推定)	
1181	城資永に源氏追討の宣旨。資永急死、跡を継いだ城長茂 信州横田河原合戦で木曾義仲に敗れる。	盛綱、石橋山で頼朝とともに挙兵
1184		盛綱、宇治川・一ノ谷・藤戸の合戦に参戦し、源氏が勝利。盛綱は藤戸の戦い(岡山県倉敷市)で活躍
1185	壇ノ浦の戦いで源氏が勝利し、平氏滅亡。	源頼朝が鎌倉で幕府を開く。
1188	幕府の囚人となり梶原景時にあずけられていた城長茂、頼朝に面会する。	源頼朝が守護・地頭を置く。
1189	城長茂が幕府軍に加わり奥州合戦に従軍する。	
1190 1192	三浦和田一族の和田宗美が奥山荘地頭に補任される。この頃、城長茂は御家人となっている。	盛綱、越後国守護・加地荘地頭に任命される。 頼朝の叔父、護念上人が加地荘に入り、菅谷不動尊を開く。
1195		盛綱、頼朝と護念上人の面会を仲介
1199		源頼朝没
1200 1201	城氏を庇護した梶原景時滅亡 城長茂、京都で挙兵 城資盛、越後で挙兵	鎌倉幕府が盛綱に城資盛の討伐を命じる。

鳥坂城の戦いで幕府軍が勝利し、城氏 滅亡

板額、幕府軍の捕虜となり、將軍の前に引き据えられる。  
板額、浅利与一義成の妻となる。

1223 城氏滅亡後、三浦和田一族が奥山荘を支配する。

1423頃 三浦和田氏は「中条氏」・「黒川氏」・「金山氏」・「築地氏」などに別れる。

1581 上杉景勝側近の中条景泰が越中魚津城で討ち死に。

1587 築地氏、中条家名代として新発田氏と戦う。

1598 上杉家の会津国替えに従い、鎌倉期以降400年にわたり奥山荘を支配していた中条・黒川氏がこの地を離れる。

(新発田に溝口氏が加賀国大聖寺から入封。その後、新発田に城下町を構えた溝口氏は江戸末期まで外様大名として栄える。)

平安時代

鎌倉時代

室町時代

安土桃山時代

## 【佐々木加地氏】の歴史

加治城跡 (市指定文化財)



盛綱が築き、その一族が本拠とした山城。標高165mの要害山の地形を利用し、本丸を囲む土塁や空堀が残っています。

MAP1 P.5-E

藤戸神社



要害山の麓にある盛綱が建立した神社。藤戸合戦の前に、命を奪った漁師の供養のために建立したといわれています。

MAP1 P.5-E



菅谷不動尊 (菅谷寺)

1190年、源頼朝の叔父、護念上人が創建した真言宗醍醐派の寺院。日本三大不動尊の一つで、目の病にご利益があるといわれています。

MAP1 P.5-D



香伝寺

佐々木加地氏の菩提寺。盛綱の子孫である加地春綱が屋敷を寄進し、現在の地に移転。今も加地氏時代の館を囲んでいた土塁が残っています。

MAP1 P.5-E

護念上人と盛綱

護念上人は、頼朝と盛綱の叔父にあたります。1159年の平治の乱で源氏が敗れた後、僧侶になり、戦禍を逃れるため不動明王像の御頭を納めた笈(仏具などを納める箱)を背負い、諸国を行脚。「笈」を掛けて休んだ松において、菅谷を永住の地と悟り、不動明王像を安置する菅谷寺を創建しました。  
1195年、盛綱は頼朝と護念上人の面会を仲介。上人は祈禱で頼朝の大姫の病を治し、頼朝を喜ばせたといわれています。

## 佐々木三郎盛綱の逸話

盛綱エピソード1

### 藤戸合戦

1184年、宇治川の合戦と一ノ谷の合戦で、源氏軍は勝利したものの、盛綱は目立った活躍ができませんでした。何としても手柄をあげたいと願った盛綱は、備前国児島の藤戸合戦の前に、藤戸の神に祈りを捧げたといわれています。

藤戸合戦では、海峡を挟み対岸の児島にいる平氏軍を、舟を持たない源氏軍は攻め込めずじまいでした。そこで、盛綱は地元漁師から浅瀬の情報聞き出し、馬で海峡を渡るといふ奇襲攻撃を仕掛け、大いに勝利に貢献しました。盛綱は源頼朝に活躍が認められ、越後国加地荘などを与えられたと伝えられています。

盛綱が結んだ絆  
盛綱ゆかりの地がある岡山県倉敷市藤戸町の「倉敷市源平藤戸合戦保存振興会」と盛綱に魅了された新発田市民との交流が平成27年に始まり、現在も親交を深めています。

盛綱エピソード2

### 七葉の松の伝説

盛綱は、加地に蔵戸屋というほら穴があると聞き、家臣に命じて調べさせました。家臣が調べると、中から美女が現われ、盛綱に一つの宝を献上しました。盛綱は、この宝を愛おしめに入れ、加治城内の土の中に埋めさせ、目印とし七葉の松を植えさせたところ、いつの間にか七葉の松に変わったことから、加治城は七葉松城とも呼ばれています。  
「七葉の松」の伝説が、この地域にある保育園や学校の名前の由来になりました。



## 板額の歴史

板額御前や彼女が活躍したであろう史跡を、胎内市民共有の文化的財産とし、それら財産が

### 現代に生きる

板額エピソード2

山梨県笛吹市と胎内市は姉妹都市として交流しています。

その後、板額は嫁ぎ先の甲斐国(山梨県)に嫁ぎました。この縁で現在も山梨県笛吹市と胎内市は姉妹都市として交流しています。

この縁で現在も山梨県笛吹市と胎内市は姉妹都市として交流しています。



活用され、愛され続けていくことを願う市民の集まりとして、「板額会」が活動を行っています。  
9月中旬の「中秋の名月、板額の宴」は、板額の嫁ぎ先である甲斐国から夫、浅利与一を伴ってふるさとへ帰ってきた板額御前を宴を開いて歓迎する、という物語仕立てのイベント。武者行列や演劇「板額御前物語」、武将隊の演武などが行われます。

